

米産地育成総合対策事業費のうち

## 令和 5 年度米どころ・酒どころ振興事業費

道産日本酒の国内外での販売拡大に向けて、北海道らしい日本酒を造るための酒米の生産振興や、道産日本酒のブランド力強化に向けた取組を総合的に推進する。

【目標】 北海道食の輸出拡大戦略<第Ⅱ期> 道産農畜産物・農畜産加工品輸出額：R5 125億円

## 《現状・課題》

- ・道内の酒蔵が使用する酒米に占める道産の割合は上昇傾向。(H25:58.4%→R2:85.5%)
- ・道産酒米の作付面積は近年増加傾向にあったが、コロナ禍による需要の減少により、R3年産は、314haと前年比67%となったものの、R4年産は回復傾向。(H25:258ha→R2:468ha→R3:314ha (R4見込355ha))
- ・酒蔵からは、醸造適性の高い新品種の開発や安定した品質の酒米の供給が強く求められている。
- ・道内14の酒蔵では、吟醸酒・純米酒などの特定名称酒の割合を増加(H25:49.3%→R3:62.4%)させるなど特徴ある酒造りを実施。
- ・一方、道内で消費される日本酒に占める道産酒の割合は2割程度と低く推移。
- ・R2年度に2酒蔵・1製造所、R3年度に1製造所が創設され、こうした動きを追い風としながら、道産日本酒の販路拡大に取り組むことが必要。
- ・全国的に増加している輸出(H25:105億円→R3:402億円)についても、北海道(R3:1.5億円)の全国シェアは0.4%にとどまっております、道産日本酒の販売拡大を図るため、ブランド力の強化・認知度の向上が必要。

## 《事業内容》

## ★ 道産酒米の生産振興 ★

## Ⅰ 品種開発の加速化 (委託)

- 酒造好適米の特性分析および小規模醸造試験による醸造適性の早期評価

## Ⅱ 高品質な酒米の安定生産

- 酒米栽培技術指導、生産技術研修会の開催
  - ・マニュアル等を活用した現地指導 (普及センター)
  - ・現地講習会・交流会 (振興局・普及センター)
  - ・指導者向け研修会 (農政部)

- 酒蔵の道産酒米に対する評価の把握

- 日本酒関係者による情報共有・取組の連携

- ・北海道日本酒懇談会

## 【構成】

関係機関・団体  
 日本酒醸造  
 酒流通・販売  
 酒米生産  
 酒米流通  
 試験・研究機関  
 行政機関  
 (事務局：農産振興課)

## Ⅲ 道産日本酒のブランド確立

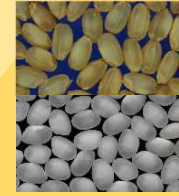
(北海道酒造組合と連携)

- 地理的表示 (GI) や地域団体商標の活用支援
  - ・事例調査、懇談会の開催

- 道内酒蔵の技術向上
  - ・酒造講習会の開催

## Ⅳ 道産酒米を使った日本酒の販売拡大 (委託)

- 女性・若年層やインバウンド等をターゲットとした道産酒米を使った日本酒のプロモーション



## 《目指す姿》

醸造適性に優れた新品種の開発  
 +  
 高品質な酒米の安定化生産技術の向上  
 ↓  
 道産酒米の需要拡大・生産拡大

↓  
 水稻作付面積の維持・拡大

日本一の米どころ  
 世界を酔わす酒どころ



北海道らしい日本酒のブランド力強化  
 +  
 道産日本酒の認知度向上

↓  
 道産日本酒の  
 道内外での販売拡大

↓  
 輸出拡大

★ 道産日本酒のブランド力強化 ★